

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
年 月 日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住所 名古屋市東区代官町40番29号	
氏名 木内建設株式会社	
取締役名古屋支店長 山本 昌巳	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-930-3311	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	木内建設株式会社名古屋支店
事業場の所在地	名古屋市東区代官町40番29号
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	D 建設業 06 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 512 (百万円)
③ 従業員数	39人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>ビル建設工事 旧建物解体→がれき類 (コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、その他) 木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、畳、蛍光灯、混合物 特定有害廃石綿等</p> <p>基礎工事→建設汚泥 建設工事→がれき類 (コンクリート塊)、木くず、廃プラスチック類 (内装材他) 紙くず (梱包材他)、ガラスくず及び陶磁器くず (ガラス、タイル、廃石膏ボード他)</p>

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項															
(管理体制図) 中央品質環境協議会 ↓ 取締役名古屋支店長 (廃棄物処理統括責任者) ↓ 管理責任者 ↓ 各店品質環境会議 ↓ 施工部門 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border: none;">┌───┐</td> <td style="border: none;">工事課</td> <td style="border: none;">→</td> <td style="border: none;">工事現場管理責任者</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">├───┤</td> <td style="border: none;">工務課</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">└───┘</td> <td style="border: none;">技術安全課</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table>				┌───┐	工事課	→	工事現場管理責任者	├───┤	工務課			└───┘	技術安全課		
┌───┐	工事課	→	工事現場管理責任者												
├───┤	工務課														
└───┘	技術安全課														
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項															
① 現状	【前年度 (平成23年度) 実績】														
	産業廃棄物の種類	がれき類 (コンクリート塊)	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず												
	排出量	1,146.66	24.90 t												
	(これまでに実施した取組) ・解体工事、敷地内への乗り入れ工事等のがれき類に関しては、再資源化処理施設にて処分を行った。 ・石綿含有 (安定型) は確実な分別を行い、安定型の埋立処分を行っている。														
② 計画	【目標】														
	産業廃棄物の種類	がれき類 (コンクリート塊)	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず												
	排出量	1,000.00 t	20.00 t												
	(今後実施する予定の取組) ・受注の工事の内容により変動が激しいが、今後も継続して、解体工事等ではがれき類の再資源化を推進する ・石綿含有産業廃棄物に関しては、適切に処理を行い、今後も安定型埋立処分場にて処分を行う。														
産業廃棄物の分別に関する事項															
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・敷地条件によるが、新築工事においては、金属くず、ダンボール、廃石膏ボード、木くず、混合物に分別するよう指導を行っている。 ・解体工事においては、金属くず、木くず、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、混合物等、出来る限り分別の指導を行っている。														
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・今後も、敷地条件、周辺環境を考慮し、出来る限り、分別の指導を行う。														

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） ・自ら再生利用は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） ・今後も自ら再生利用は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
（これまでに実施した取組） ・自ら熱回収、中間処理は行っていない。			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） ・今後も、自ら熱回収、中間処理は行わない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（これまでに実施した取組） ・実施していない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	（今後実施する予定の取組） ・実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類（コンクリート塊）	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1,146.66 t	24.90 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,146.66 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
（これまでに実施した取組） ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減をはかった。			

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類 (コンクリート塊)	石綿含有ガラスくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1,000.00 t	20.00 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,000.00 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 優良認定処理業者の選定を検討する。 ・ 委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。		
※事務処理欄			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
前述のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	排 出 量	198.00 t	27.08 t
	(これまでに実施した取組) ・建設汚泥に関しては、処理業者による脱水処理等を行い、再資源化を推進している。 ・木くずに関しては、施工条件によるが、出来る限り分別を行い、再資源化を行った。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	排 出 量	190.00 t	25.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・工事の受注内容により、変動が激しいが、受注内容が、解体工事、場所打ちコンクリート杭工事等がある場合は、継続して、上記の取組を実施する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 前述のとおり		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 前述のとおり		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・自ら再生利用は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も自ら再生利用は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・自ら熱回収、中間処理は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も、自ら熱回収、中間処理は行わない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	全処理委託量	198.00 t	27.08 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	198.00 t	27.08 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減をはかった。		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	木くず
	全処理委託量	190.00 t	25.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	190.00 t	25.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・優良認定処理業者の選定を検討する。 ・委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
前述のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	排 出 量	2.58 t	32.79 t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維くずに関しては、再生利用業者へ処理を委託し、最終処分の減量を図った。 ・ 混合物に関しては、出来る限り分別を行い、最終処分の減量化を図った。 		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	排 出 量	2.00 t	32.00 t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維くずに関しては、今後も出来る限り再生利用業者へ処理を委託し、最終処分の減量化を図る。 ・ 混合物に関しては、今後も出来る限り分別を行い、再生利用業者、優良認定処理業者へ委託を行う。 		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 前述のとおり		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 前述のとおり		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・自ら再生利用は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も自ら再生利用は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・自ら熱回収、中間処理は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も、自ら熱回収、中間処理は行わない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) ・実施する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	全処理委託量	2.58 t	32.79 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	32.76 t
	再生利用業者への処理委託量	2.58 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・可能な限り再生利用業者への処理委託を行い、最終処分量の低減をはかった。 ・混合物に関しては、出来る限り優良認定処理業者を採用した。		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	繊維くず	混合物
	全処理委託量	2.00 t	32.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	30.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	2.00 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良認定処理業者の選定を検討する。 ・委託先処理業者には定期的に実地確認を実施する。 		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙2)

事業場の名称
三井ホーム(株)中部営業本部 技術部

産業廃棄物処理計画—内訳書—

1. 前年度の産業廃棄物発生量

(単位:t/年)

		全処理委託量の種類										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-実績-	1145.18	128.85	384.995	110.981	135.497	13.611	759.189	6.526	16.74	205.13	2906.697
		優良認定処理業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-実績-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		再生利用業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-実績-	1082.28	16.45	351.225	106.913	28.76	13.521	695.064	0.636	0.444	204.65	2499.945
		認定熱回収業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-実績-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		認定熱回収業者以外熱回収を行う業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-実績-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 本年度の目標

(単位:t/年)

		全処理委託料の種類										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-目標-	1030.66	115.965	346.496	99.8829	121.947	12.2499	683.27	5.8734	15.066	184.617	2616.027
		優良認定処理業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-目標-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		再生利用業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-目標-	974.054	14.805	316.103	96.2217	25.884	12.1689	625.558	0.5724	0.3996	184.185	2249.951
		認定熱回収業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-目標-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		認定熱回収業者以外熱回収を行う業者への処理委託量										総合計
		がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック	金属くず	混合廃棄物	紙くず	木くず	繊維くず	石綿含有産業廃棄物	廃石膏ボード	
排出量	-目標-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0